

都道府県名	岡山県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	建部町立福渡小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	9
児童数	14	8	24	20	15	18	3	102	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を身に付けるための指導法の工夫 - 基礎・基本の定着を目指して -
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

実施学年 実施教科 教科の選択理由	全学年対象 算数科
「確かな学力」を身に付けるためには、「読む・聞く力」「書く・話す力」「計算する力」などの基礎・基本となる力の定着が大切であると考え。その基礎・基本の力を身に付けるためには、まずは、算数科を中心とした研究が適切であると考えた。	

(2) 年次ごとの計画

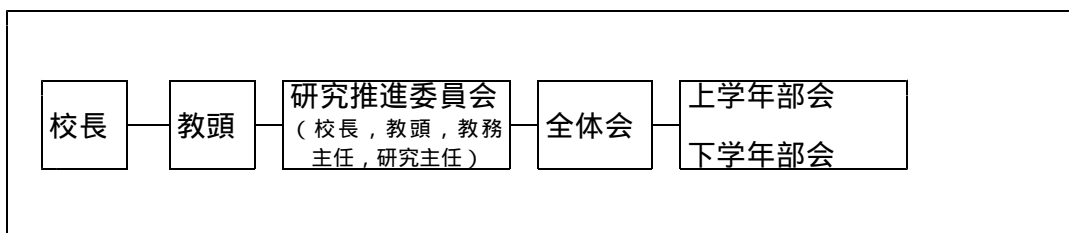
平成14年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付けるための指導法の工夫 - 基礎・基本の定着を目指して - (算数科・国語科を中心として)</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学力」のとらえ方等の学習と共通理解をはかる。(理論学習)</li> <li>・ 基礎・基本の定着を図るための工夫。(授業研究)</li> <li>・ 副教本(算数科)の研究。</li> <li>・ 評価の仕方の研究(個人カルテの作成と活用)。</li> <li>・ 朝の学習、「学力定着の時間」の効果的な使い方について。</li> <li>・ 先進校の視察。</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付けるための指導法の工夫 - 基礎・基本の定着を目指して - (算数科を中心として)</p> <p>研究の見通し 基本的な「読む・聞く力」「書く・話す力」「計算する力」を個に応じた身に付けることにより、自信・意欲が高まり、問題解決の力などの確かな学力が育っていくことが期待できると考えられる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究 基礎・基本の定着をはかる工夫と発展的・補足的な学習の研究</li> <li>・ 副教本の作成</li> <li>・ 個人カルテの修正と活用</li> <li>・ 中間報告会の実施</li> </ul>
--------	--

平成16年	<p>テーマ 「確かな学力」を身に付けるための指導法の工夫</p> <p>研究の見通し 基本的な「読む・聞く力」「書く・話す力」「計算する力」を個に応じ</p>
-------	--

度	<p>て身に付けることにより，自信・意欲が高まり，問題解決の力などの確かな学力が育っていくことが期待できると考えられる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の定着をはかる工夫と発展的・補足的な学習の研究</li> </ul> </li> <li>・ 副教本の活用</li> <li>・ 個人カルテの活用</li> <li>・ 研究のまとめの作成</li> </ul>
---	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

- ・ 本研究を進めていくうちに，何より教師自身が，児童一人一人に「確かな学力」を付けたいという願いを強く持つようになった。そして，それが児童の実態に合わせた指導の工夫として表れ，その結果，意欲的に学習に取り組む児童の姿がしだいに見られるようになってきた。
- ・ 客観的なデータとは言いがたいが，平成15年5月と12月に「勉強に関するアンケート」を全学年に行った。「4とても好き」から「1きらい」の数字を で困むものであるが，6月平均2.78から12月平均2.98と多少の上昇が見られた。「計算が好きである」というコメントも見られ，少しずつ「計算する力」が定着しているという手ごたえをもっている。  
成果としては，次のようなことがあげられる。
- 基礎・基本の定着を図る工夫
  - ・ 「学力」について全職員で研修を重ね，研究授業を通して効果的な指導法についての研修を深めることができた。
  - ・ 頭ほぐしの時間を設けることにより，児童の授業に取り組む構えができるだけでなく，既習事項の復習を重ねることで計算等の定着が図れた。
  - ・ 副教本（プリント集）の個々人に合わせた使用により，発展的な学習や補足的な学習が可能となり，個に対するきめ細やかな指導ができるようになった。
  - ・ 第3・4学年の算数科で実施しているTT指導により，児童への的確な支援や個に対しての丁寧な指導を行うことができた。
- 評価を生かした指導
  - ・ 算数科の個人カルテの観点項目等を見直し・修正することで，よりよい活用ができるようになった。個人カルテを使って事前に児童一人一人の実態を把握することで，授業の中での一人一人に応じた支援ができるようになった。また，単元末・学期末と評価することにより定着の様子を正しくつかむことができるようになった。
- 時間割の工夫
  - ・ 「福小タイム」（昨年度は「学力定着の時間」）は，基本的な計算問題等の既習事項の定着を図るためにとっても有効であった。来年度も継続していきたい。
- 学習の基盤づくり
  - ・ 基本的な生活習慣や家庭学習についての実態調査を行うことで，それぞれの問題点を把握することができた。特に，課題としていた姿勢については姿勢向上委員会を中心に重点的な取り組みをした結果，以前にもましてよい姿勢で学習しようとする児童が増えきており，学習効率の面からも好影響を及ぼしている。

## 2. 今後の課題

- ・ 算数副教本（プリント集）を個に対応できるように，單元ごとに作成していく必要がある。
- ・ T・Tの指導については，教師間の連携の仕方を研究していくことで，さらに効果的な指導ができると考えられる。
- ・ 個人カルテを基にしながら，授業での個に対応する指導法について，より研究を深めていく必要がある。
- ・ 学習の基盤づくりとして，基本的な生活習慣や学習態度の定着を目指すために，さらに，取り組みを工夫していくとともに，家庭との連携を図っていかなければならない。
- ・ 学力テストを平成14年5月と平成15年5月に行っているが，来年度も実施し，その結果の分析についても研究をし，客観的な側面からの考察をしていく必要がある。
- ・ 算数科で研究した「確かな学力」を身に付けるための工夫を，他の教科・領域にも広げていく必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

- 学力検査の実施（4月 2年～6年実施）
- 学力定着テストの実施（年3回学期末）
- ・ 算数科における基本的な問題を中心としたテスト

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 研究会（中間発表会）の実施  
日 時：平成16年2月5日（木）  
場 所：福渡小学校  
対 象：郡内小中学校・県内学力向上フロンティアアスクール指定校  
参加方法：公開授業及びポスターセッション
- ・ 視察の受け入れ
- ・ 研究資料の紹介・提供
- ・ 校内授業研究の公開（町内等へ案内）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無